

## 第15回 わくわくコンサート ～みんなで楽しむ音楽鑑賞会～

第15回 わくわくコンサート実行委員長

三木 祐香

### ◆わくわくコンサートとは

小さなお子様や特別な支援を必要とする方等、普段コンサートに参加することが難しい方も含め、誰もが気軽にホールで音楽に触れて楽しんでいた chance を創出すること目的とした、平成19年度から始まったコンサート活動です。香川大学の学生を中心に活動し、先生方や大学職員、卒業生、演奏者、複数の企業、団体等のご協力を得て、毎回無料でコンサートを実現してきました。ご来場くださる多くのお客様からご好評をいただき、今年度で15回目を迎えました。



第15回 わくわくコンサート実行委員会

### ◆第15回 わくわくコンサート

今回は「フランスに花開く異国文化」をテーマにしました。テーマ国をフランス、サブテーマをダンスとし、新たな取り組みとして、以下の3つを行いました。1つ目は、フランスバロック音楽とブレイキンのコラボレーションです。2024年のパリオリンピックで新種目となるブレイキンを取り入れた、わくわくコンサート特別バージョンでお届けしました。2つ目は高松市内の美術部中学生が描いたイラストの映写です。演奏中、ボックス

クリーンに映写し、原画は入場の際やお帰りの際に楽しんでいただけるよう、ロビーにて展示を行いました。こちらはお客様アンケートでも大変好評でした。そして3つ目は、香川ジュニアオーケストラ(KJO)のご協力です。卒団生も含め、優秀なメンバーが演奏に参加してくれました。コロナの影響で演奏者の来県に困難が生じる可能性に対応した措置でしたが、双方にとって大変良い機会になったと考えています。

今年度はチラシ入稿期限ぎりぎりまで入場者数の制限について悩みました。入稿時点ではコロナ感染者数が落ち着き、100%の入場が可能だったためです。しかし、結果的には、感染者が増えてきた時期の開催となったために入場者数50%での開催決定が功を奏しました。今年度も昨年度に引き続き、Formsでの応募としました。昨年度の反省をもとに、一人一人の申し込みにしたことや、注意書きを詳細にして入場許可証を送付したこと等は改善できた点です。

1月11日に学校関係にチラシを配布したところ、14日午後には500名(ホール収容可能人員の50%)の定員に達しました。会場は3階席まで開放し、ソーシャルディスタンスを十分に確保しました。また、当日までに相当数のキャンセル待ち希望の電話対応に追われ、本コンサートの人気を窺えました。



ロビーに展示された原画

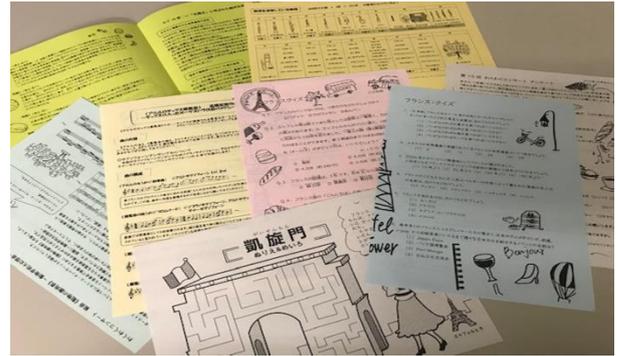


スタッフの様子

(コロナ対策：検温、消毒、フェイスガードで対応)

プログラムは、4曲で構成されました。1曲目に、フランスの雰囲気あふれる作品をサクソフォン・アンサンブルのメドレーに構成した《アルルのサクソス展覧会》、2曲目にブレイキンとコラボしたJ.P.ラモアの《優雅なインドの国々》より、3曲目に高松市内の美術部中学生のイラストが映写されたサン＝サーンスの《動物の謝肉祭》、そして4曲目にラヴェルがバレエ団のために書き下ろした《ボレロ》を演奏しました。特にお客様から好評をいただいたのは、2曲目の《優雅なインドの国々》です。バロック時代のダンス音楽の第一人者と言われる J.P.ラモアのグルーヴ感あふれる作品とブレイクダンスのコラボレーションは「音楽とダンスの両方を楽しめた」と感想をいただきました。また、3曲目の《動物の謝肉祭》も好評でした。谷川俊太郎の詩の朗読とイラストの映写によって「ストーリーが分かりやすかった」とのお声をいただきました。

当日ご来場いただいたお客様に待ち時間も楽しんでいただくための資料作成にも力を入れました。幼児用、子ども用、大人用のクイズや、社会科専攻の学生はフランスの歴史を解説した資料を作成しました。さらに、資料の配布形態にも変化を加えました。これまで香川大学図書館や大使館、観光局からご協力を得て、観光局の出版物や各国の紹介等の冊子を紙媒体で配布していましたが、ネットでの紹介に切り替えました。



お客様にお渡しした資料

コロナの影響で観光立国であるフランスも大きな影響を受けましたが、ルーヴル美術館の展示品のオンライン公開やフランス全土の観光紹介がされるようになりました。今回はそれらにアクセスできる QR コードを資料に掲載し、お客様にご紹介するという試みを行いました。また配布物の挿絵は全て学生たちが描いたものです。



J.P.ラモア『優雅なインドの国々』より

今年度も昨年度同様、休憩時間のロビーやトイレでの密集を避けるため、2部構成だったプログラムを1部構成に変更し、ロビーイベントも開催中止としました。

コロナ禍での2回目の開催となりましたが、昨年度の改善点を活かすことができたのではないかと思います。先を見通せず、思い通りに計画することが難しかったですが、私たちにとってかけがえない貴重な経験となりました。最後になりましたが、たくさんのご協力、ご支援を頂戴いたしました松楠会の皆様に厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。